

# 安住寺だより



# 禅の心

第164号

発行 安住寺 (年4回発行)  
 臨済宗南禅寺派  
 大分県杵築市大字南杵築379  
 〒873-0002 TEL0978-62-2680  
 URL <http://www.anjuji.net>  
 編集 矢野明玄 2.3頁  
 矢野玄德 1.4頁  
 印刷 安住寺コピー室

今年の夏も猛暑日が続き、各地で最高気温を更新した。自然災害も多く発生した。地震や豪雨に見舞われた地域は、家を失った方も多く、生活再建に難儀をされている。仮設や他に住まいを移された方たちも将来が不安で、心身に不調が生じ、二次三次の被害が発生する心配もある。そのような中、ボランティアの神

## この心に慈悲の徳ある之を名付けて観音という



白衣観音《村上天心筆》

様なる人が現れた。お隣の日出町に住む『尾島春夫』さんだ。八月十二日周防大島町の祖父宅に母と里帰りし、行方不明になった二歳児を三日振りに発見したことで全国に知れ渡った。警察官や消防の人達が必死に探しても発見出来なかったのに、経験が有るからと日出町から軽四輪車で駆け付け、十五日の朝三十分程で無事に発見した。子供が無事で三晩も過ごしたことも奇跡だが、搜索を開始して直ぐに発見したことも奇跡

だと全国の人々が絶賛した。ところが、更に驚いたことにこの尾島春夫さんは、六十五歳で鮮魚店を閉めてから数々のボランティア活動をされている方だということだ。別府市と由布市の境にある由布岳の登山道を長年に亘り補修を続け、各地に災害が発生すればいち早く駆け付け、片付けや泥の運びだしなどを

している。東日本大震災でも東北まで出かけ、今年の七月豪雨災害でも広島県呉市方面へ何度も繰り返し出かけた。泥まみれになりながら泥に埋もれた家の片付けに汗をながしている。しかも、食事はもちろん寝る場所、作業に必要な道具は全て自前でボランティア活動をしている。作業の手順や要領も良く、慣れていない人からは『ボランティアの神様』と尊敬され、マスクミでは『スーパーボランティア』として取り上げられた。先日、呉市から戻られたのを聞きつけご自宅に伺いました。日焼けしたお顔で快く家に招き入れてくれた。いろいろと話をしてくれた。二十八歳で鮮魚商を始め、六十五歳で店を閉めるまで大勢の人に助けられた。その恩返しに好きだった山登りで、登山道の補修を始めたとのこと。その後は、ご承知のとおり東日

本大震災の被災地に何度も通って行方不明者の搜索や、後片付けに精を出したり、各地の被災地に出かけ必死に活動している。手助けをしたい気持ちはあるけれども中々出来ることではない。まるで観音様のようないかな慈悲心を持ち合わせた人です。車には生活に必要な物を積み込んで行く。現地では決して人様に迷惑を掛けない。これが尾島さんのボランティア哲学。



## 行事予定

10月4日 日帰りバス旅行  
 檀信徒なら参加できます。

10月9日 独秀流ご詠歌

10月13日 早朝坐禅会

10月19日 写経会

11月9日 合掌会奉仕作業

11月29日 合掌会奉仕作業

写経会	坐禅会	ご詠歌
10/19	10/13	10/9
11/20	10/27	10/19 午後
12/14	11/10	11/7
	11/24	11/17
	12/8	12/7

都合により、変更することがあります。

# 名刹紹介・山口 洞春寺

九月初旬、山口県を訪れる機会がありました。宿泊先は、山口線の山口駅のそば。早朝宿泊先のホテルを出て、亀山公園の中を県庁方向へ足を進める。県庁前の信号を右折し、右手に武徳殿を眺めながら山手に向かって進む。目的は臨済宗建仁寺派の古刹、正宗山・洞春寺。



国指定重要文化財の四脚門

以前訪れたのは、もう二十年近く前、現南禅寺管長 中村文峰老師の兄弟子で、南禅僧堂師家で洞春寺の前住職としていた高山泰巖老師が遷化された折であった。文峰老師も泰巖老師も、洞春寺の中村泰祐老師に就き得度されている。

山口は戦国時代、大内氏の本拠地として栄えた。現在もその時代の大内文

化が色濃く残る町で、多くの文化財が集まる。その中心的な場所に洞春寺は位置し、五重塔で有名な瑠璃光寺や毛利家墓所が隣接する。洞春寺の地は、応永十一年(1404年)、大内盛見(もりはる)が国清寺として建立したもので、現在も寺内に大内盛見の墓が残り、四脚門の山門は当時のものとされ、重要文化財となっている。



元々、洞春寺は天正元年(1573年)毛利元就の三回忌にあたる年に、元就の葬儀の導師であった嘯岳鼎虎(しょうがくていこ)禅師を開山に、孫の輝元が菩提寺として創建した寺で、常栄寺とともに、毛利氏本拠の吉田郡山城下(現在の広島県安芸高田市)にあった。

関ヶ原の戦い後、毛利氏の防長二州への移封にともない、現在地に常栄寺が移り国清寺を合寺、洞春寺は萩へと移った。現在の洞春寺の地は、常栄寺として幕末を迎え、山口への藩庁移転時には武器などの貯蔵庫として藩に借り上げられる。



鐘楼門

第一次長州征伐後には、幕府恭順という藩の決定に異を唱える藩士たちが寺に集まり撤回を求めたが、主張が受け入れられることはなく、悲嘆、憤慨のあまり抜刀し柱を切りつけ、その傷が今も本堂の柱に数多く残る。文久三年(1863年)に常栄寺は宮野の地へ、さらに明治維新後の明治二年(1869年)に萩から洞春寺が山口の同地へと移り今に至っている。常に藩政と共に転生し、毛利家代々の栄枯盛衰を偲んできたのが洞春寺の特徴といえます。

また、明治三十七年に当時の住職荒川道隆師が、日露戦争の戦災遺児と家庭不遇児を育成するために、境内に山

口育児院を創設し、現在も三十名が入所し孤児の育成に努めています。

文峰老師に御伴して洞春寺を訪れた際、小僧時分のお話をしてくださいました。中村泰祐老師は懇切丁寧に指導して下さり、開枕(就寝)の挨拶の際は、宿題を出されたり、お経の暗唱や、語録の素読をするように言われるなど、常に学ぶことを大切に言われた。

そのお陰で、三人いた兄弟弟子、勝平宗徹老師は東京大学に、高山泰巖老師は京都大学に、中村文峰老師は慶応大学に進まれ学ばれた。

文峰老師がいつも兄弟子二人に負けないように、競っていたが私が一番出来が悪かったと、話されたことを思い出します。



国指定重要文化財の観音堂

## ブツダのことば

近頃海外でこんなニュースが話題になりました。

南米アルゼンチンの首都ブエノスアイレスの小児病院に、貧困のため栄養失調になった赤ん坊が運ばれてきた。

口に指をくわえひどく泣いている姿は、一目でお腹を空かせていることが分かったが、病院はひどく混んでおり、医師も看護師も対応できなかった。

それを見た、病院を警備していた女性警察官が、医師の許可を得て自らの母乳を、赤ん坊に飲ませてあげたという話である。

躊躇せずに、母親のように振る舞った女性警察官の行為は、ソーシャルネットワークサービスで取り上げられ、たくさんの方に称賛された。

さて、「ブツダのことば」一四九には次のようにあります。

あたかも、母が己が独り子を命を賭(か)けて護るように、そのように一切の生きとし生れるものどもに對しても、無量の(慈悲みの)意(こころ)を起すべし。

母の恩、親の恩は「仏説父母恩重経」などにも説かれておりますが、親が子

供に与えるような、無償の慈しみが誠に大切です。

また、「ブツダのことば」七五には次のようにもあります。

今の人々は自分の利益のために、交わりを結び、また他人に奉仕する。今日、利益をめざさない友は、得がたい。自分の利益のみを知る人間は、きたならない。犀の角のようにただ独り歩め。



自らの利益を一切考えず、奉仕することとは大変難しいことです。閑栖和尚と記事が重なりますので詳しく書きませんが、ボランティアの鏡尾畠春夫さんを思い出さずにはいられません。

「犀の角のようにただ独り歩め。」とありますが、サイは基本的に群れを作ります。そのサイの頭部にある一本の角のように、独りで自らの歩みを進めなさいということなのです。

自己の利益のみを考えた行いはきたならしいと言っています。たとえ共感がなくとも、孤高であつても利他の精神で奉仕することが大切です。

突き詰めていけば、仏教は信仰ではなく、実践ではないでしょうか。

天台宗の伝教大師最澄「一隅を照らすものはれ則ち国宝なり」の言葉を思い出します。

人それぞれに、置かれた立場や環境があります。自らの置かれる場所で、自らのできることを、コツコツ実践していきましょう。

見返りを求めない、慈しみをもった奉仕の実践こそがお釈迦様の求めるところでしょう。

### 禅語「至道無難」

中国禅の三祖僧璨(さんそそうさん) 禅師の『信心銘』に出てくる言葉で、「至道無難(しいどうぶなん)、唯だ揀択(けんじやく)を嫌う、但だ憎愛(ぞうあい)莫(な)ければ、洞然(とうねん)として明白(めいはく)なり。」の一節で、

最高の真理に至るのは難しいことではない。ただ取捨、憎愛の念を起こして、選り好みをするのを嫌うだけである。

ただ憎むとか愛するとかがなければ、それはこの上なく明白になる。

好き嫌いをし、選り好みをし、とかく私たちは右往左往して生活しています。そんな風ではなかなか大切などころに行きつきません。「唯だ揀択を嫌う」これが大切です。

### 《日々是好日》

★西日本豪雨災害、北海道地震等災害が続いております。被災されて皆様に心よりお悔やみお見舞い申し上げます。★八月三日山門施食会・今年度より朝の法要一座となり、お斎も一回となりましたが、台所のお手伝いの皆様のご協力によりまして、滞りなくお勤めできました心よりお礼申し上げます。★四日・養徳寺施食会、五日・千光寺施食会の法要に出頭いたしました。★八月八日・杵築市無縁供養★八月十四日・西下司区供養盆踊り法要。子供も踊りの輪に参加、抽選にて特別賞の景品をいただきました。★お盆の棚経も無事に終わりましたが、小学校の始業が一週早くなり、子供には短い夏休みとなりました。★八月は月例行事をお休みしていましたが、九月より再開しております。坐禅会・写経会等、ご参加お待ちしております。★九月七日合掌会役員会、敬老会・バス旅行・奉仕作業の予定について話し合いがもたれました。十一月二十九日の奉仕作業では、障子の張替えを予定しています。ご協力お願いいたします。★今年度も杵築市仏教会主催のグラウンドゴルフ大会が開催される予定です。日程が決まり次第、参加者を募りたいと思います。ご参加お待ちしております。 合掌



色紙・広石碩田先生画

### 仏教と数字

数字で表現する仏教の教えを紹介します

#### ④ 三帰依

三宝に帰依し敬礼すること。三帰ともいう。仏・法・僧の

まり仏とその教えと教団という三つの宝に帰依することです。三帰依は、仏教徒の最も基本とする信仰の心掛け態度です。その第一は、「帰依仏」に帰依したてまつる。次は法に帰依したてまつる。三つめが僧伽（そうぎや）に帰依したてまつるです。更に「南無」を付けて全身全霊をかけて信奉し、お支えしますという心構えを表すのです。中途半端では決してありません。「法」は勿論お釈迦様が説かれた教えや宗旨、教義です。しっかりと学び教えに沿った生き方をする。僧伽は、お坊さんだけの事ではありません。信心をする仲間たち皆にも気を配り、手をつなぎ、支えていく生き方をするのが信仰の第一歩です。

平成30年9月17日を基準日にした番付表です。(9/15現在)

平成30年度 長寿番付表 安住寺敬老場所						
西	年齢	おすまい	御免蒙	東	年齢	おすまい
田代	100		横綱	上	100	庄
中村	98		大関	阿部	98	南
古田	97		同	河野	97	一
末松	96		関脇	平野	97	南
工藤	96		同	藤原	96	古
麻生	96		同	宇都	96	麻
麻生	95		小結	阿部	95	西
柏屋	95		同	廣石	95	東
藤原	94		同	宗田	95	東
井上	94		前頭 1	木付	94	北
石井	94		同 2	田椽	94	南
松浦	93		同 3	田辺	93	広
阿部	93		同 4	渡邊	93	西
麻生	93		同 5	土肥	93	赤
上	93		同 6	江藤	93	東
廣石	92		同 7	小玉	92	本
須賀	92		同 8	阿部	92	東
末松	92		同 9	清末	92	東
荒巻	92		同 10	須賀	92	東
原	91		同 11	岩口	91	宇
二宮	91		同 12	宇都	91	麻
清末	91		十両 1	麻生	91	麻
川上	90		同 2	藤原	91	西
宗田	90		同 3	麻生	90	中
磯田	90		同 4	宮脇	90	橋
諸富	90		同 5	厚田	90	木
河野	90		同 6	八坂	90	本
諸富	90		同 7	亀岡	90	南
河地	89		同 8	渡邊	90	西

## 祝長寿

百歳の方がお二人になりました



いつまでも  
お元気でネ

杵築市の100歳以上の高齢者数（8月10日現在）38名になりました。亡くなる方も有る中、毎年6～7名増えていきます。安住寺もご覧のように百歳の方が2名になりました。田代ハツ子さんは、自炊生活をされる程お元気です。全国では、百歳以上の人口が67,824名だそうです。まさに超高齢化社会になりました。閑栖も70歳になりましたが、70代はまだまだ子供世代？です。

義援金のお知らせ	
大阪府北部地震義援金（新規）	50,000円
30年7月豪雨義援金（新規）	100,000円
8月までのお賽銭	50,819円
<b>これまでの義援金総合計</b>	<b>1,536,188円</b>
(内 お賽銭 893,046円)	